

令和3年

救助統計

# は じ め に

この統計は、天童市において令和3年に救助工作車等が出場した実態を分析し、今後における円滑な救助業務の推進に資するとともに、市民の理解と協力を得るために作成したものです。

## 目 次

	ページ
救助事故等の種別・区分に使用される用語について……………	1
1. 事故種別出場件数……………	2
2. 月別出場件数……………	3
3. 曜日別出場件数……………	4
4. 時間帯別出場件数……………	4
5. 救助活動により救助した件数・人員……………	5
6. 活動により使用した資機材……………	5
7. 救助隊員の訓練実施状況……………	6
8. はしご車の訓練実施状況……………	7

## 救助事故等の種別・区分に使用される用語について

この統計の用語、分類等については、総務省消防庁の『救急事故等報告書要領』を準用しております。

### 1. 「火 災」

火災現場において、直接火災に起因して生じた事故をいう。

### 2. 「交通事故」

すべての交通機関相互の衝突及び接触又は単一事故若しくは歩行者等が交通機関に接触したこと等による事故をいう。

### 3. 「水難事故」

水泳中の溺者又は水中転落等による事故をいう。

### 4. 「風水害等自然災害事故」

暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火、雪崩、地すべり、その他の異常な自然現象に起因する災害事故をいう。

### 5. 「機械による事故」

エレベーター、プレス機械、ベルトコンベアーその他の建設機械、工作機械等による事故をいう。

### 6. 「建物等による事故」

建物、門、柵、塀等の建物に付帯する施設又はこれらに類する工作物の倒壊による事故、建物等内に閉じ込められる事故、建物等に挟まれる事故等をいう。

### 7. 「ガス及び酸素事故」

一酸化炭素中毒その他のガス中毒事故、酸素欠乏による事故等をいう。

### 8. 「破裂事故」

火災事故以外のボイラー、ボンベ等の物理的破裂による事故をいう。

### 9. 「その他」

1 から 8 に掲げる以外の事故等で、消防機関による救助を必要とした事故をいう。

## 1 事故種別出場件数

令和3年の救助出場件数は47件で、前年と比べると7件増加となりました。出場件数を事故種別ごとにみると、火災による出場が16件(34.0%)と最も多く、次いで交通事故による出場が13件(27.7%)で、合わせると全体の61.7% (前年比-3.3%) を占めています。

( ) 内数字は令和2年

事 故 種 別		出 場 件 数	
火 災	建 物	8	( 3 )
	建 物 以 外	8	( 5 )
交 通 事 故		13	( 18 )
水 難 事 故		1	( 1 )
風 水 害 等 自 然 災 害 事 故		0	( 1 )
機 械 に よ る 事 故		1	( 3 )
建 物 等 に よ る 事 故		9	( 4 )
ガ ス 及 び 酸 欠 事 故		2	( 0 )
破 裂 事 故		0	( 0 )
そ の 他		5	( 5 )
合 計		47	( 40 )

## 2 月別出場件数

月別の件数をみると、4月が10件(21.3%)と最も多く、次いで3、8月が5件(10.6%)となっています。1件当たりの出場人員は13.2人(前年度比+1.4人)、出場台数は3.8台(前年度比+0.4台)となっています。

( ) 内数字は令和2年

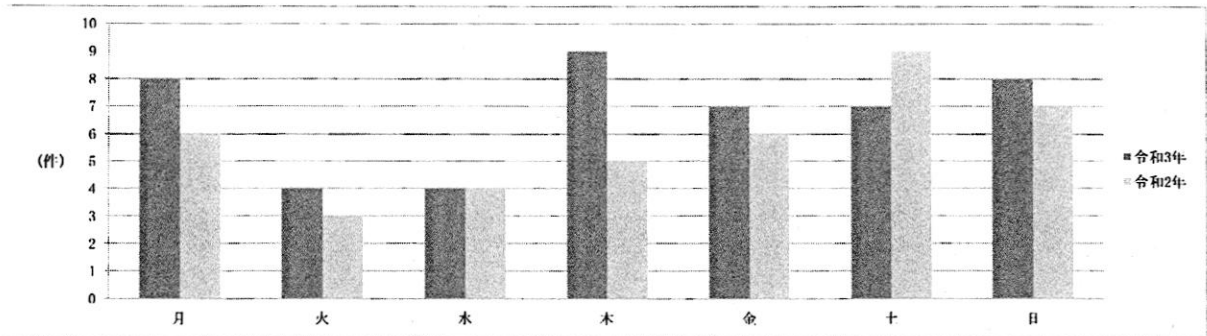
月別	出場件数	事故種別									出場人員	出場台数
		火災	交通事故	水難事故	風水害等自然災害事故	機械による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	破裂事故	その他		
1	2 (4)	2 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	70 (47)	14 (14)
2	4 (1)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	38 (14)	11 (4)
3	5 (6)	3 (1)	0 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	78 (75)	23 (22)
4	10 (3)	5 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	123 (36)	38 (10)
5	4 (5)	0 (3)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	2 (1)	45 (87)	13 (21)
6	2 (4)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	23 (48)	8 (13)
7	3 (2)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	33 (15)	11 (4)
8	5 (0)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	53 (0)	15 (0)
9	3 (5)	0 (0)	1 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	31 (56)	10 (18)
10	4 (3)	1 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	48 (34)	13 (11)
11	1 (3)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (22)	4 (7)
12	4 (4)	2 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	66 (37)	20 (12)
合計	47 (40)	16 (8)	13 (18)	1 (1)	0 (1)	1 (3)	9 (4)	2 (0)	0 (0)	5 (5)	621 (471)	180 (136)

### 3 曜日別出場件数

出場件数を曜日別にみると、木曜日が9件(19.1%)と最も多く、次いで月曜日、日曜日が8件(17.0%)、金曜日、土曜日が7件(14.9%)、火曜日、水曜日が4件(8.5%)となっています。

( ) 内数字は令和2年

曜日	月	火	水	木	金	土	日	合計
出場	8	4	4	9	7	7	8	47
件数	(6)	(3)	(4)	(5)	(6)	(9)	(7)	(40)



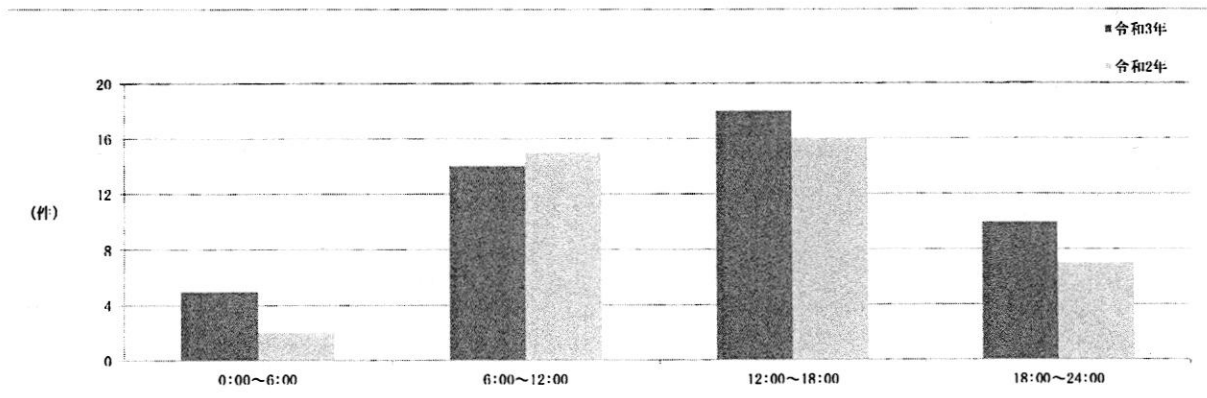
### 4 時間帯別出場件数

出場件数を時間帯別にみると、12時から18時までの時間帯が最も多く18件(38.3%)発生しています。次いで6時から12時までの14件(29.8%)、18時から24時までの10件(21.3%)、0時から6時までの5件(10.6%)と続きます。

日中の時間帯(6時から18時)の出場が32件と全体の約7割を占めています。

( ) 内数字は令和2年

時間帯	0:00~6:00	6:00~12:00	12:00~18:00	18:00~24:00	合計
出場	5	14	18	10	47
件数	(2)	(15)	(16)	(7)	(40)



## 5 救助活動により救助した件数・人員

出場件数47件のうち、救助活動を実施した件数は21件で全体の44.7%になります。救助した人員は21名でした。

交通事故による救助人員数が最も多く7名で全体の33.3%を占めています。

( )内数字は令和2年

事故種別	救助活動件数	救助人員
火災	1(0)	1(0)
交通事故	7(7)	7(7)
水難事故	1(1)	1(1)
風水害等自然災害事故	0(0)	0(0)
機械による事故	1(2)	1(2)
建物等による事故	6(2)	6(2)
ガス及び酸欠事故	2(0)	2(0)
破裂事故	0(0)	0(0)
その他	3(1)	3(1)
合計	21(13)	21(13)

## 6 活動により使用した資機材

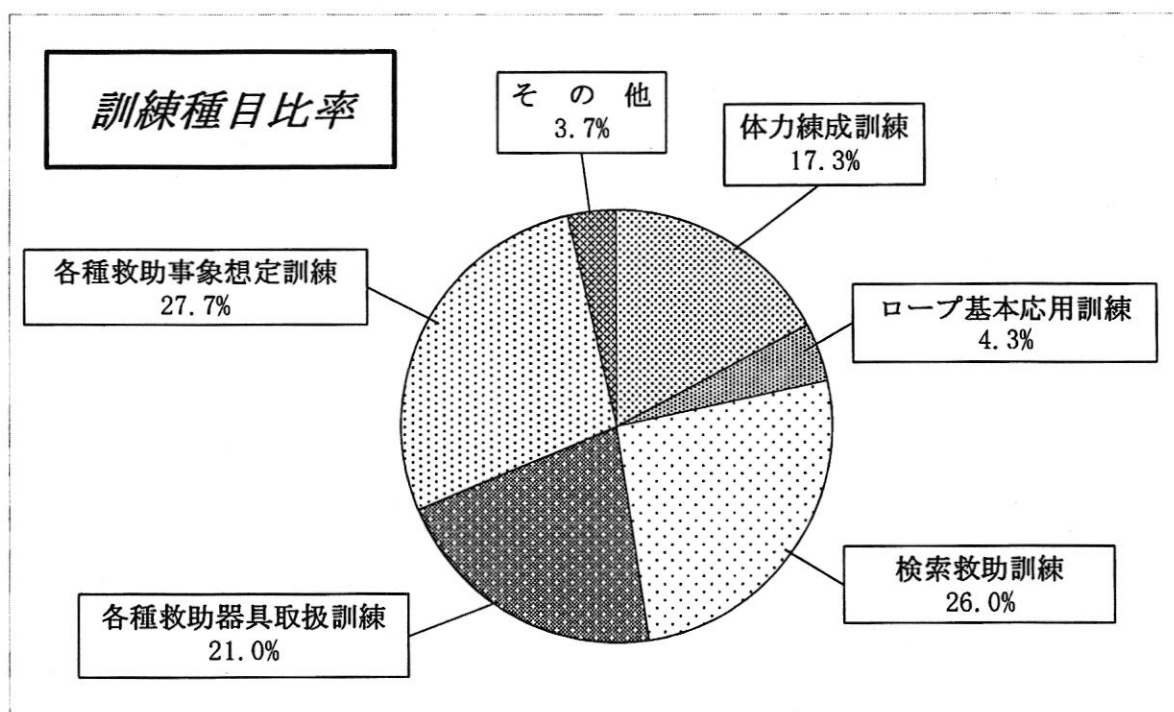
救助工作車には、一般的な工具から高度救助用器具まで多数の資機材を積載していますが、救助活動の内容に応じて資機材を選定し使用しています。

資機材分類・品名	使用回数	資機材分類・品名	使用回数
一般救助用器具		山岳救助用器具	
かぎ付はしご	3	バスケット担架	5
三連はしご	2	その他の救助用器具	
救助用ロープ	6	信号器付投光器	3
カラビナ	2	とび口	6
重量物排除用器具		剣先スコップ	1
大型油圧スプレッダー	3	パール	3
コンビツール	2	高度救助用器具	
ラムシリンダー	1	熱画像直視装置	14
切断用器具		その他の器具	
大型油圧切断機	1	車輪止め	5
エンジンカッター	1	遮蔽幕	6
チェーンソー	1	レスキューブロック	6
エアソー	1	車両固定用具	2
バッテリーソー	4	あて木	1
ペダルカッター	1	工具セット	4
破壊用器具		バキュームリフター	3
万能斧	2	LED投光器	2
ドアオープナー	1	携帯ライト	1
測定用器具		デジタルカメラ	8
可燃性ガス測定器	6	資機材集積用シート	3
呼吸保護用器具		レーザーポインター	1
空気呼吸器	15	資機材携行用袋	1
隊員保護用器具		バックボード	2
革手袋	1	毛布	5
水難救助用器具		ライトアップコーン	2
救命胴衣	1	ロックアウトセット	1

## 7 救助隊員の訓練実施状況

救助隊員は、災害が発生した場合に安全・確実・迅速に救助活動が行えるよう、各種救助事象想定訓練を中心に様々な訓練を行っています。

区分 訓練種別	実施回数 実延回数	実施人員 実延人員	1回当たり 参加人員	実施時間 実延時間
体力練成訓練	52	293	5.63	106時間00分
ロープ基本、応用訓練	13	64	4.92	20時間50分
検 索 救 助 訓 練	78	606	7.77	123時間35分
各種救助器具取扱訓練	63	402	6.38	84時間05分
各種救助事象想定訓練	83	726	8.75	121時間35分
そ の 他	11	90	8.18	10時間55分
合 計	300	2,181	7.27	467時間00分





## 8 はしご車の訓練実施状況

高層建物で災害が発生した場合に、はしご車を活用して安全・確実・迅速に救助活動が行えるよう、日々点検を行うとともに操作技術の向上に努めています。

区分 訓練種別	実施回数 実延回数	実施人員 実延人員	1回当たり 参加人員	実施時間 実延時間
基本応用操作訓練	16	75	4.69	8時間50分
防火対象物架梯調査	0	0	0.00	0時間00分
月間点検	7	30	4.29	6時間00分
各種想定訓練	14	69	4.93	13時間15分
見学・展示	12	43	3.58	4時間50分
点検・その他	275	1,093	3.97	124時間10分
合計	324	1,310	4.04	157時間05分

